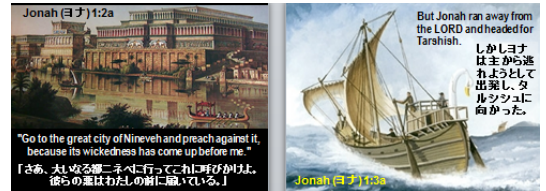


I. 導入

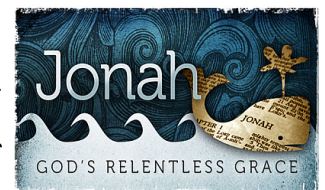
おはようございます。まず手短に、これまでの学びを振り返りましょう。ヨナ1:2で、主は預言者ヨナに次のように命じられました。「さあ、大いなる都ニネベに行ってこれに呼びかけよ。彼らの悪はわたしの前に届いている。」これほど明確な命令なら従うしかないだろうと思われそうですが、ヨナ1:3aは「しかしヨナは主から逃れようとして出発し、タルシシュに向かった。」と語ります。



ヨナが神に従わなかったせいで、ヨナの乗った船は危うく転覆するところでした。そこで、ヨナが自らの命をいけにえとして差し出し、海に投げ入れられました。すると、海は静まり、船乗りたちは主に心を向けました。海では、ヨナが大魚に飲み込まれ、ついに神に向かって叫びました。ヨナ2:2「ヨナは魚の腹の中から自分の神、主に祈りをささげて、」神はヨナの祈りを聞き、魚の腹の中という暗闇からヨナを救い出してくださいました。ヨナ2:11「主が命じられると、魚はヨナを陸地に吐き出した。」



船乗りたちは偶像を礼拝する人たちで、ヨナは神から逃げる預言者でした。それでも神は、彼らのことをお見捨てになりませんでした。神の絶え間ない恵みが、彼らを追い求めました。今日の箇所には、主が罪と暴悪からニネベの人々を悔い改めに導かれた様子が描かれています。



では、ヨナ書3:1-10を読みましょう。

II. 聖書朗読 (ヨナ書:1-10、新共同訳)

3:1 主の言葉が再びヨナに臨んだ。 3:2 「さあ、大いなる都ニネベに行って、わたしがお前に語る言葉を告げよ。」 3:3 ヨナは主の命令どおり、直ちにニネベに行った。ニネベは非常に大きな都で、一回りするのに三日かかった。 3:4 ヨナはまず都に入り、一日分の距離を歩きながら叫び、そして言った。「あと四十日すれば、ニネベの都は滅びる。」

3:5 すると、ニネベの人々は神を信じ、断食を呼びかけ、身分の高い者も低い者も身に粗布をまとった。 3:6 このことがニネベの王に伝えられると、王は王座から立ち上がって王衣を脱ぎ捨て、粗布をまとめて灰の上に座し、 3:7 王と大臣たちの名によって布告を出し、ニネベに断食を命じた。「人も家畜も、牛、羊に至るまで、何一つ食物を口にしてはならない。食べることも、水を飲むことも禁ずる。 3:8 人も家畜も粗布をまとい、ひたすら神に祈願せよ。おのこの悪の道を離れ、その手から不法を捨てよ。 3:9 そうすれば神が思い直されて激しい怒りを静め、我々は滅びを免れるかもしれない。」

3:10 神は彼らの業、彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくだすのをやめられた。

III. 教え

ヨナが神からの警告を告げると、ニネベの人々は悔い改めました。彼らはへりくだって、断食をして粗布をまといました。神はその悔い改めた様子を見て彼らにあわれみを示されました。悔い改めた様子についてヨナ**3:10**にはどう記されていたでしょう。「**彼らが悪の道を離れた**」とあります。本気で悔い改めるというのは、罪を悪く思ってへりくだった態度を示すだけではありません。本気で悔い改めるなら、罪から神へとはっきりとした方向転換が伴うはずで、これは大事なポイントなので、少しいっしょに考えてみましょう。

分かりやすい例を挙げます。あなたは上司から東京出張を命じられたとします。翌日朝5時に起きて、新大阪駅に向かいました。まだ寝ぼけまなこだったので、新幹線に乗ったとたんに寝てしまいました。一時間後、目が覚めて窓の外を見ると、岡山の文字が見えるではありませんか。電車を間違ってしまったのです。まったく反対の方向に来てしまいました。あなたは、もっと気をつけていればよかったと後悔します。



自分の間違いを悔やむ気持ちは大切ですが、それだけでは悔い改めとは言えません。悔い改めるには、その電車を降りて、東京行の電車に乗らなければならないのです。もちろん、電車を間違えるのは罪ではありません。ただのミスです。けれども、このたとえから私たちが学べることは、悔い改めには状況を正そうとする行いが伴うということです。悪かったと思うだけでは十分ではありません。

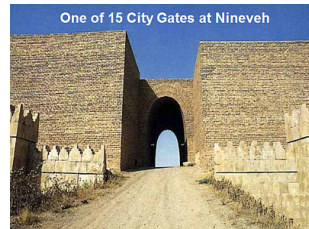
コリント第二**7:10**で、パウロはこう記しました。「**神の御心に適った悲しみは、取り消されることのない救いに通じる悔い改めを生じさせ、世の悲しみは死をもたらします。**」世の悲しみは悔い改めをもたらすことはなく、誰の救いにもなりません。一方、神のみこころにかなった悲しみは、救いに通じる悔い改めをもたらします。残念ながら、罪悪感を感じながらも本気で悔い改める努力を惜しむ人はたくさんいます。たとえば、盗むのは悪いことだと思いつつも、欲望に負けて盗みを続けてしまうといったことです。エフェソ**4:28**はこう語ります。「**盗みを働いていた者は、今からは盗んではいけません。むしろ、労苦して自分の手で正当な収入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい。**」

本気の悔い改めは、申し訳ないと思うだけではありません。心を入れ替え、行いも変えることです。盗みは単なる一例ですが、パウロはその次の個所でいくつかの罪を挙げます。この中には、私たちが日頃それほど気にしていないものもあるかもしれません。エフェソ**4:29-32**「**4:29 悪い言葉を一切口にしてはなりません。ただ、聞く人に恵みが与えられるように、その人を造り上げるのに役立つ言葉を、必要に応じて語りなさい。4:30 神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、聖霊により、贖いの日に対して保証されているのです。4:31 無慈悲、憤り、怒り、わめき、そしりなどすべてを、一切の悪意と一緒に捨てなさい。4:32 互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。**」盗みや暴力といった犯罪は、わかりやすい罪です。一方、人を故意に傷つける言葉や悪意のある態度も罪です。このような罪から悔い改めるなら、親切やあわれみ、赦しが言動に見て取れるべきです。

ニネベの話に戻しましょう。ニネベは、極悪非道で知られた古代都市です。ヨナの時代には、新アッシリア帝国の首都が置かれていました。紀元前934年から609年ごろ、この帝国は世界一の大国であったと推測されます。当時のニネベも、世界屈指の大都市でした。



ニネベの一部は考古学者によって発掘され、再建された城門には多くの観光客が訪れます。この城門をよく見ると、侵入者があればあらゆる方向から矢を放ち、岩を投げ落とせるように設計されています。12キロにわたるりっぱな城壁には、熟練の兵士が配置され、町の中心部を守っていました。



このスライドでは、ニネベがどれくらいの大きさだったかをわかりやすくあらわすため、大阪市内の地図と縮尺を合わせてみました。ニネベは、梅田から天王寺ほどの距離に延び、環状線の内側半分くらいの面積になります。それだけの地域がすべてレンガ造りの高い壁で囲まれていたと考えると、ニネベがどれだけ大きな町だったかがおわかりいただけると思います。城壁に囲まれた町の住人は、外敵から守られて安全だと思っていたでしょう。この城壁の中から、アッシリアの王は暴虐によって広大な帝国を支配しました。

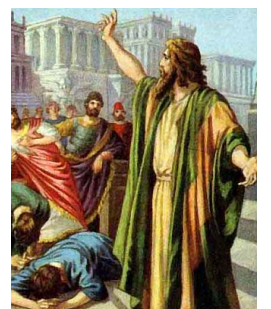


歴史研究家たちによると、ヨナがニネベに到着したのはおそらくアダドニラリ王三世の治世中だったといえます。1967年に発掘されたこの石碑は、アダドニラリ王三世の記念碑です。アダドニラリ王三世は若くして王位に就いたと考えられています。ですから、ヨナがニネベに到着した時点でも王はまだ若者だった可能性があります。



いくつかの箇所を見ていきましょう。ヨナ3:1-2「主の言葉が再びヨナに臨んだ。3:2『さあ、大いなる都ニネベに行って、わたしがお前に語る言葉を告げよ。』」主はやり直しのチャンス一度でなく何度も与えてくださるお方です。これは、私たちにとって大きな励みになります。というのも、最初から正しいことをできる人は少なく、主のみことばを信じて従えるようになるまでには何度もやり直さなければならないからです。聖書には、一度目に失敗した人の例がたくさん記されています。それでも彼らは、最終的に忠実なしもべとして主に仕え、重要な働きを担いました。

ここで、ヨナは再びチャンスをいただきます。ニネベの町に行くようにという神の命令に従うチャンスです。そして今回は、従いました。ここで、主はヨナに語るべきメッセージも与えておられます。それはどんな内容でしょう。ヨナ3:4「ヨナはまず都に入り、一日分の距離を歩きながら叫び、そして言った。『あと四十日すれば、ニネベの都は滅びる。』」ヨナがこの言葉だけを語ったなら、ニネベの人々はヨナが創造主なる神の預言者だとはわからなかったでしょう。また、罪から悔い改めれば滅びなくてすむかもしれないとも思わなかったでしょう。ですから、これは実際にヨナが語った内容の全部ではなく主旨だと考えられます。



ニネベの人々の反応には目を引くものがあります。ヨナ3:5「すると、ニネベ



の人々は神を信じ、断食を呼びかけ、身分の高い者も低い者も身に粗布をまとった。」ニネベの人々は皆そろってヨナの言葉を信じ、悔い改めました。王までもが粗布をまとって灰の上に座り、悔い改めて祈るよう民に命じました。

王は自分の考えを次のように述べています。ヨナ3:9「そうすれば神が思い直されて激しい怒りを静め、我々は滅びを免れるかもしれない。」自分たちが悔い改めれば神があわれんでくださるかもしれないという希望が王にあったことが伺えます。現代に生きる私たちは、聖書のいたるところに神の恵みあわれみと愛の痕跡を見ることができます。それに比べ、ニネベの王はイスラエルから来た預言者の語る言葉だけが頼りだったでしょう。しかし、私たちがどれほどの知識を持っているかは神にとって重要ではありません。神が見られるのは、私たちの心の状態です。詩篇51:19はこう教えてくれます。「しかし、神の求めるいけにえは打ち砕かれた霊。打ち砕かれ悔いる心を／神よ、あなたは侮られません。」

ヨナ3:10「神は彼らの業、彼らが悪の道を離れたことを御覧になり、思い直され、宣告した災いをくたすのをやめられた。」ヨナの語った言葉を聞いて、ニネベの人々は自らの悪を悔い改めました。神はそれを見て、人々を救われました。アダドニラリ王三世の時代に、ニネベの人々は罪を悔い改め、神に救われたのです。

ただし、悔い改めは遺伝しません。それぞれの世代が自分の罪を悔い改める必要があります。ニネベの場合、次の世代は再び悪の道を進みました。こうして約150年後、神は再びニネベに警告するようイスラエルの預言者を導かれました。ナホム1:14「主はお前（ニネベ）について定められた。『お前の名を継ぐ子孫は、もはや与えられない。わたしは、お前の神の宮から／彫像と鑄像を断ち／辱められたお前のために墓を掘る。』」しかし今回は悔い改めず、ニネベの町は紀元前612年に陥落しました。

結果はどうであれ、ヨナの時代にニネベの人々が悔い改めた事例は、悔い改めが命を救うことと、神の名を呼び求める人には神のあわれみが与えられることを明示します。イエスはニネベの人々が悔い改めた例を挙げてユダヤの人々に警告しました。マタイ12:41「ニネベの人たちは裁きの時、今の時代の者たちと一緒に立ち上がり、彼らを罪に定めるであろう。ニネベの人々は、ヨナの説教を聞いて悔い改めたからである。ここに、ヨナにまさるものがある。」主は忍耐してくださるお方ですし、悔い改める人にはあわれみを施してくださいます。けれども、主は永遠に忍耐されるわけではありません。後の世代が悪の道に戻ると、結局ニネベは滅ぼされました。

話を進める前に、ある問題について疑問に思う人がいるかもしれないのでお話したいと思います。申命記18:22にはこうあります。「その預言者が主の御名によって語っても、そのことが起こらず、実現しなければ、それは主が語られたものではない。預言者が勝手に語ったのであるから、恐れることはない。」神の預言者は主の言葉のみを語ります。そして、主に誤りはありません。ところが、ヨナはニネベが40日後に滅びると預言しましたがそれは実現しませんでした。では、ヨナは偽預言者なのでしょうか。そんなことはありません。

ヨナが本当に主の預言者だったことは明らかです。イエスご自身がヨナを預言者と呼んでおられるからです。ですから、預言の詳細はわかりませんが、ヨナの預言は条件付きであったと考えられます。聖書に記されたヨナの預言の言葉は、それが条件付きの預言であると明言しませんが、全体の内容から考えればそれは明らかです。悔い改めなければ40日後にニネベは滅ぼされるという内容だったわけ

です。聖書に記されているのは、ヨナの語った言葉を短く要約したもののようです。

実際、あらゆる国や民に対する預言は常に条件付きとして受け取るべきでしょう。主は、エレミヤ**18:7-8**で次のように説明しておられます。「**18:7** あるとき、わたしは一つの民や王国を断罪して、抜き、壊し、滅ぼすが、**18:8** もし、断罪したその民が、悪を悔いるならば、わたしはその民に災いをくだそうとしたことを思いとどまる。」滅ぼすという預言が条件次第であることは、私たちの読む聖書の訳の中で明確にはされていませんが、預言を受け取った時代の文化や言語の背景においては、そのことが明らかだったと思われま

IV. 結び

この世は人も国も富や権力を追い求めます。それらを手に入れるためなら暴力や嘘を使うこともよしとします。ニネベとアッシリア帝国がそうでした。今の時代でも同じことが繰り返し起こっています。しかし、自らの悪を悔い改めて主の名を呼び求める民には、主のあわれみが示されます。これは一人ひとりが己の罪を悔い改めることから始まります。

罪を犯すことで、得だとか楽しいとか思えることもあるかもしれませんが。けれども、神の御国で受ける永遠の富に比べれば、この世の富や快適さはクズ同然です。マタイ**16:26**でイエスはおっしゃいました。「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。」私たちの心の状態とたましいの保証は、この世の何よりも価値のあるものです。



ニネベは預言者ヨナの警告を聞いて悔い改めました。私たちには聖書全体の証とキリストの十字架による救いの約束があります。イエスを主であり救い主として信じる人は、罪を赦され、天国で主と住まう永遠の命が与えられます。ここにいるすべての人が悔い改めて主に心を向けますように。また私たちの家族も救われますように。私たちが皆、神の恵みあわれみを受け、すばらしい神の愛を体験しますように。



最後に、マルコ**1:15**のイエスの言葉を読んで終わらしましょう。「『時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい』と言われた。』

V. 祈り